



照明探偵団通信

vol. 101 Shomei Tanteidan Tsu-shin

Singapore Night Walk No.4: Traveleisure – Jewel Changi at Dawn

Jewel, Changi Airport
19th July 2019

Team: Sunyoung Hwang, Mayumi Banno, Sherri Goh, Niken Wulandari Sutanto

Night walk in the month of July to talk about lighting at Jewel Changi Airport, a massive new retail and lifestyle complex in Singapore!



Strategically located in the heart of Singapore Changi Airport, Jewel Changi Airport is a world-class multi-dimensional lifestyle destination that comprises a myriad range of offering including gardens and attractions, retail and dining offerings, a hotel and facilities for airport operations. The balance of daylight and the use of light fixtures is well thought throughout the complex, and in the evening, expressions of light are still gradually changing as time slips by, for a full 24-hours of pre-set lighting operations.

This time lighting detectives visited Jewel during off-peak hours to experience lighting transition until sunrises. Our early riser detective members of around 20 people were gathered at Jewel at 5:30AM and had a walk from forest valley to basement,



Forest Valley, Jewel in the morning time

retail areas, gateway gardens and to L5d attractions when almost no one is around. We were lucky enough to get free, exclusive access to some of the attractions in L5d. The entrance gates were open specially for lighting detective members on this day. (Yey!) Backgrounds of our participants were diverse. About 20% of people were coming from lighting / Design industry and the rest



Jewel Vortex during the showtime

were from non- design industry. Pre-requisite to join this night walk was to first experience the Jewel lighting show during evening peak hours (7:30pm – 12:30am). Usually, during the show time, as you can imagine, entire forest valley is filled

with people and the space is full of colours of lights and special effects. We hoped to share different face of Jewel during off-peak hours with participants and discuss further on how a place like Jewel should be lighted up differently in 24-hour cycle.

Since few of our lighting detectives' members worked on the architectural lighting of Jewel project, interesting history of the project and brief information were shared. With the understanding of basic lighting concept of the project, lighting detectives walked the site to look for hero and villains of lighting.

After the walk of about 1.5 hours to different parts of Jewel, we gathered down to discuss what we have witnessed and found out today in terms of lighting. By the time we set down, it was already morning.

Using facebook event page, participants uploaded their own heroes and villains and shared their insights with others. As can be seen from some hero pictures on the right, many participants appreciated natural lighting that comes to Jewel through the glass dome. The amount of artificial lights are minimised few hours before the sunrise to bring more nature into the building by allowing darkness, which is what we are supposed to have at night. Some of the popular hero picks were landscape lighting at L5d, mirror maze lighting and also very dim forest valley lights during early morning time. It could not be well captured in the picture but fibre optic lighting that speaks louder when all the forest valley lighting were dimmed (to almost completely off) was enjoyed by the participants.

Popular picks of villains were signages and media wall. These seem to interrupt the peaceful morning time scene of nature. Another frequent pick was the suspended spotlight at East Gateway Garden. The tilting angle seemed glary at certain view points.

We also discussed on how lighting should be operated for a place like Jewel. We threw a question whether the lights for forest valley area should be kept colourful and bright



Hero Picture from Participant 'Indra Santosa'
He picked this area as a hero of lighting as it is tranquil and pleasant.



Hero Picture from Participant 'Adeline Lum'
He said 'lights are a bit glary and we lose information on how the space looks like.'

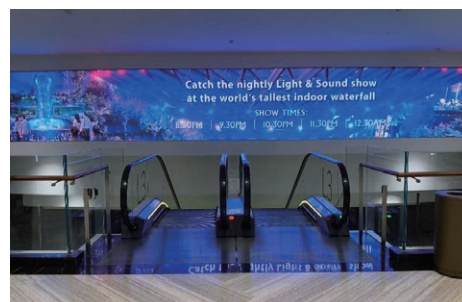


Discussion time at Forest Valley
since there could be a travellers transiting only for few hours during off peak hours. Majority of us thought that lighting should be more silenced during late night hours to keep the serenity of the space. It was tough for all of us to wake up so early but it was one interesting and refreshing experience for all.

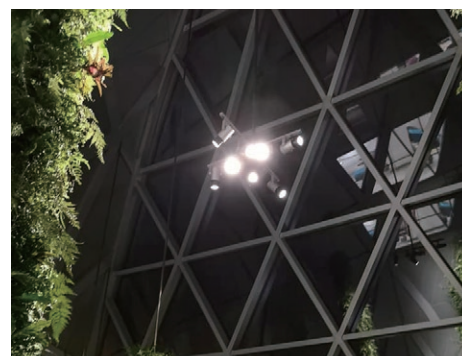
(Sunyoung Hwang)



Villain Picture from participant 'Li Li Li'
She does not like the neon in peaceful morning time.



Villain Picture by participant 'Matthias Alexander'



Villain Picture from participants 'Luis F. R. Barahona'



Hero Picture from our member 'Irene Tan'
She found mirror maze lighting very interesting.



Final Group Picture

こどもワークショップ

「野菜モチーフのランタンを作って灯そう！」

2019.09.21 細野恵理奈

過去最大級の人数が集まった練馬区ふるさと文化会館でのこどもワークショップ。練馬区産の農作物をモチーフに、色とりどりの手作り野菜ランタンを製作しました。

9月21日に、練馬区立石神井公園ふるさと文化館の主催にて、ランタン祭り「野菜モチーフの手作りランタンを灯そう！」が開催されました。

今回のイベントには、1・2年生の小学校低学年を中心に、歴代のこどもワークショップ最大級となる52名のこども達が参加。保護者の方や運営スタッフも含めると100名を超える大人数が一堂に会する中、野菜をモチーフにしたランタン製作と、「火とあかりのレクチャー」が行われました。読者の皆さまは、練馬区では都市農業が盛んで、大根やねぎを始めとした代表的な農作物があることはご存知でしたでしょうか。今回はランタン製作をきっかけに、練馬の農業のことをこども達に知ってもらいたいという文化館の方々の思いから、練馬産の農作物として有名な大根、ねぎ、うど、とうもろこし、トマト、柿、キャベツをモチーフとしたランタンの型紙を用意しました。

当日は、受付を済ませたこども達に好きな野菜を選んでもらい、1時間でランタンを作成してもらうという流れ。まずオリエンテーションでは、見本のランタンのろうそくに火を灯し、部屋の電気を消すとランタンがどのように見えるのかをレビューしました。するとたちまちこども達から、「わあ!」「きれい!」「かわいい!」と感嘆が上がり、可愛らしさのあまり大人たちの顔は思わず綻びてしまいました。

製作が始まると、真剣な表情でランタンの型紙をカットしていくこども達。ハサミでの切り抜きで作成できるトマト、柿、キャベツの班が次々と2、3個目のランタンに挑戦していく一方で、大根、ねぎなどのカッター作業が必要な野菜に関しては、それ自体生まれて初めて使うというお子さんも多く、慣れない刃物に怖さと難しさを感じるお子さんが多かったようです。特にうどの型紙に関しては大人でも骨の折れるカッター捌きが必要でしたが、最終的には全てのこども達が時間内にケガなくランタンを完成させることができ、皆の誇らしげな表情が輝いていました。中には、用意されたカラーセロハンを自由に切り貼りし、独創性の高いカラフルな野菜ランタンに仕上げる子も見られました。

その後、記念写真撮影のため、各自出来上がったランタンのキャンドルに火を灯してから古民家(旧内田家住宅前)まで移動。一所懸命完成させたオリジナルのランタンに明かりが灯った瞬間、歓声が上がり、こども達が温かな明かりに見入る様子がとても印象的でした。撮影後、ふるさと文化館の小林館長と面出団長による「火とあかりのレク



完成したランタンを持って集合写真



練馬野菜の紹介を行う小林館長



こども達に指導をする面出団長



作業中の様子



みんなでランタンを持って古民家へ

チャー」を聴くため、こども達が囲炉裏を囲みました。

レクチャーでは、昔電気が無かった時代に、囲炉裏の火が人々に暮らしにとってどんな存在であったかを教わりました。かつては調理や暖を取るための熱源として、また、家族で夕食を食べたり団欒を過ごすための場として、火が何役も担っていたということ。実際に電気を消して囲炉裏の火だけを灯してみると、どれくらいの明るさになるのかということ。その囲炉裏の火はどのように起こしていたのかということ。普段と違う、暗く温かな空間で行われたレクチャーに、こども達は真剣に耳を傾けていました。

今回のワークショップは、普段意識しない明かりを自ら作り出すことの面白さや、その光の予想外



囲炉裏を囲んで団長と館長の話を真剣に聞くこども達

の温かさをこどもも大人も体験できる貴重な機会となったのではないのでしょうか。(細野恵理奈)

出張街歩き in 京都

2019.09.26

本間睦朗 + 小松祐美 + 石田泰一郎 + 小谷弥

4年ぶりとなる関西での街歩きは古都京都。観光客で1年中賑わっている京都の夜の景観は京都らしいものになっているのかを調査してきました。

■京都街歩きの趣旨と概要

京都に住み始めて1年、まだまだ新たな魅力に遭遇してます。噛めば噛むほど味が出てくるということになるのでしょうか、魅力のバリエーションは実に豊かです。

そして、待ちに待った探偵団の京都街歩き。

面出団長の最初のご挨拶にあったように「京都は私たちにとって大切な街」。そんな京都を、皆さんがどのように感じになるか興味津々です、新たな魅力を感じさせてくれそうな期待もあります。

私達は京都を代表する4つの観光名所を、4班にわかれて街歩きをしました。

では早速、京都の街歩きに出かけましょう！

■1班 木屋町→先斗町→鴨川沿い

1班は、「木屋町、先斗町、鴨川沿い」が担当。鴨川沿いを南下し、先斗町を北上して、さらに木屋町通を南下するルートを定めて出発です。

◆鴨川沿い

鴨川の河原はイイ感じの間です。存在自体が英雄の鴨川ですが、この間により、さらに特別な英雄となっているのかもしれません。しかし、こんな鴨川でさえ犯罪者が！

川床の雰囲気の良い電球色の灯りが、遠く南座まで柔らかに続いていて、うっとりなのですが、そんな川床の灯りの連なりに、夢からたたき起こされるように出現する白色光の提灯。異次元のトンチンカンさで雰囲気を壊してくれます。「仏壇の雰囲気」「あの世みたい」・・・皆さん、この罪を改めてほしい思いを抱き、四条通りに抜けました。

◆先斗町

夜の先斗町は京都を代表する超混雑エリア。外国の方も多く、日本に居ながら完全アウエー気分が味わえます。

そんな先斗町の英雄は「調和」です。

店舗のあかりはガラガラ主張せず、さりげない。狭い路地を挟んで、対面の店舗どうしがジャマし合うことなく街あかりを形成しているとのご意見もありました。感動です。

なんでも、先斗町では店舗改修時にはご近所さんからご意見を頂く決まりになっているらしいのです。街並みを良くしようとする自主規制がしっかりと構築されているわけです。

◆木屋町通り

春先は、高瀬川沿いの桜がライトアップされて、艶っぽく通りを彩っていました。

しかし、桜がない今、高瀬川沿いの木屋町通は、



街歩き後の懇親会の様子。街歩き初参加の方も多数出席。話題は尽きません。



オリエンテーションの様子



「闇を照らす」床の灯り。遠く南座まで連なっています。



本来、情緒豊かな高瀬川沿いの木屋町通り



先斗町のはんなりした灯り

まるで「空気の読めない人」みたいな街灯があぶり出されて存在感を示し、雰囲気を悪くしています。さらに、お店のカウンター席から臨める高瀬川を照らす、木屋町通までグレアまっしぐらなスポットライト、景観どころの騒ぎではありません。木屋町通りは、四条通りの南側まで下がると、しっとりと雰囲気が変わります。街並みを彩る、朱色の支柱のぼんぼりも素敵です。

「規制に縛られる」という言葉だけを捉えると、ナンテツマラナイコトナダと思ってしまうので

すが、歩いてきたエリアは、きちんと規制しているからこそ、この素敵な雰囲気なのでしょう。突然変異的な前衛が新たな文化になることがあるのは、これまで人類はたくさん経験してきているんですけど、頑なに保守的に維持に努めるべきかもしれない、このエリアは、それがうまくいってるなあ・・・と感じました。（本間睦朗）

■2班：白川沿い・祇園北エリア

京都屈指の古美術街の古門前通り、白川沿いの住宅街、伝統的な街並みを保全する祇園新橋、

雑居ビルが立並ぶ歓楽街を中心に歩きました。

◆古門前通り

歩き始めてすぐ目についたのは、白く鋭い光を放つ街灯。眩しく、歴史ある祇園の風情に合わないと思われ、犯罪者候補になりました。

夜の古美術街は、暗く、静けさに満ちていましたが、ところどころ町家の格子越しに漏れる温かい色味の光や門灯が、歴史ある建物とその内に暮らす人々の矜持を伝えているかのようです。ここでも、点在する白く単調な街灯の光が、通りの雰囲気を変えているのは残念でした。

◆白川沿いの住宅街

日中は川のせせらぎと緑が心地よい散策路も、夜は無味乾燥とした街路灯のため、寂しい雰囲気がありました。低位置の温かい色の光がもっとあれば、心地よく安全な空間になりそうです。

◆祇園新橋

重伝建にも指定されている新橋通りは伝統的な町家の1階の格子戸を縁取る柔らかい光と2階の簾からの漏光に統一感があり、行灯や提灯の温かい色の光と相まってノスタルジックな異空間へ私たちを誘ってくれます。心地よい暗さと光の調和から、通り全体が英雄となりました。一方で、近隣の店舗では、唐突な壁面へのスポットライトに一同当惑する場面もありました。ただ、同建物のもう片方の壁面には、障子を通した柔らかい光の中に展示品の優美なシルエットが浮かび上がり、夜の古都らしい風情を感じました。同一の壁面に光の英雄と悪者が同居している状態です。

さらに白川沿いには店内から見える桜の木々をライトアップしている飲食店があり、他から見ると眩しく不快な光は利己的で、周囲への配慮を欠いているとして犯罪者に選ばれました。

◆歓楽街

最後に歩いた歓楽街では伝統的な町家の店構えの風俗店に施されたカラーライトや昭和の雰囲気漂うネオンサインが、しっとり落ち着いた古い町並みと隣合っている様は、京都や祇園ならではの夜の風景と言えるのかもしれません。

今回、歴史ある通りをいくつか歩きましたが、重伝建に指定されている新橋通りの光の統一感と近隣の通りの落差が大きいので、もっと広範囲に町並みに合った光環境が作られていくと素敵だと思います。(小松祐美)

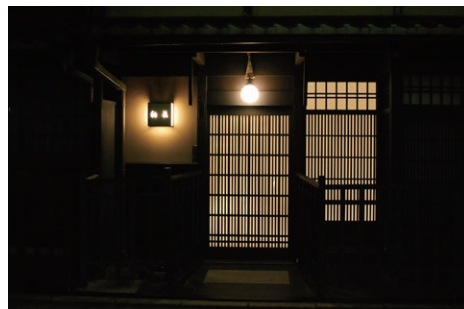
■3班 八坂神社→河原町

◆岡崎・祇園・知恩院界隈

3班は八坂神社から河原町が担当エリアです。まずは、岡崎から祇園へと流れる白川沿いを歩いてみました。川沿いには行灯のような照明器具が配置され、低温度の光を発していました。



白く眩しい街灯 唐突な壁面スポットライト



古美術街格子の漏れ光と門灯



新橋通りの統一感のある光



周囲への配慮が欠けた木のライトアップ



照度や写真を撮りながら、調査する団員



歓楽街 町家のカラーライト



川沿いの行灯のようなボラード照明 白い街路灯が犯罪者



車道を照らす照明はないが、リズムカルな陰影を創出



ちぐはぐな印象のぼんぼり照明



京都の景観にそぐわないまぶしすぎるドラッグストア

浅い水流、兩岸の柳などと相まって、いい感じの光景を作っています。ところが街路灯の白い光がグレアとなってその光景に割り込んでいます。白川沿いには「英雄」と「犯罪者」が隣り合わせになっていました。

東大路通を南下すると知恩院の参道があり、そこに広がる暗さに惹かれました。車道の両側には低い柱状の照明器具が並び、その上部から出

る光が歩道との境目を示しています。しかし車道を明るく照らす光量はありません。車道は均一な暗さに沈んでいます。歩道には器具の下部から出る光が緩やかに映じて、擁壁を照らす光と共に静かなリズムを作り出しています。参道の照明は「英雄」で納得でした。

◆八坂神社・花見小路

八坂神社前で記念撮影をして、祇園の花見小路

に向かいました。この通りには石畳の道路の両側に伝統建築が並んでいます。花見小路の光に目を向けると、支柱と一体化した照明、ぼんぼりのような照明、赤い提灯、そして店の看板などがありました。しかし、まぶしかったり、白い光が散見されたり、どこかちぐはぐな印象です。特にぼんぼり照明は大きすぎて違和感があり「犯罪者」だろうとなりました。この界限には、ほぼ店先の灯りだけで落ち着いた雰囲気の水辺に路地もあります。その照明は「英雄」です。さらに鴨川に向かって歩いていると、唐突にドラッグストアがあり、周囲から際立って明るい光を放っています。「犯罪者」に認定です。花見小路の奥には祇園甲部歌舞練場があります。驚いたことに歌舞練場には何の照明もありませんでした。隣接する弥栄会館も同様です。投光器の強い光が敷地を照射しているだけです。疑問を感じつつ「犯罪者」としました。後日の報道によると、弥栄会館には改修後帝国ホテルが入り、休館中の歌舞練場も大規模な改修計画が進んでいるとのことでした。花見小路にはどのような光が作られていくのでしょうか。

◆鴨川沿い

街歩きの最後は四条大橋の周辺です。橋の上から鴨川の景観を楽しみ、河川敷に降りてみました。そこには散策路を歩いたり、川岸に座ったりする人がいます。川辺に照明はなく、河川敷は暗い空間です。ただ、この季節は川床が出ていて、拡散した光が周囲にも及んでいます。川床の灯を「英雄」としました。「犯罪者」的な振る舞いの光もありました。ある店の建物側に取り付けられたスポット光は川床を通り越して、散策路を直射していました。鴨川の川辺はそこを訪れる人が共有している空間です。その共有されたものに対する意識が問われているように感じました。

(石田泰一郎)

■4班 寧々の道→二寧坂→清水寺→石塀小路
4班は、寧々の道から二寧坂、清水寺まで足を伸ばし、石塀小路から、河原町へと歩きました。

◆寧々の道周辺

寧々の道の前に、商店街を通り抜けました。そこは、アーケード街になっていましたが、お店の提灯に風情があり、足を止めて見入ってしまいました。提灯で店の看板とアーケードの灯りが形成されていました。しかし、見上げると、大きな白熱電球がついていました。これは、先付けか後付けかどちらなのだろうか？明るさはほんとにこれでいいのか？そもそもあるべきなのか？と言った談議が出来ました。

寧々の道では、何度も後ろを振り返りながら歩きました。「暗いよね。でも、街明かりとして成り立っていますね。」という話を何度もしました。



街路灯はないが、店の照明でいい雰囲気の水辺に



下り坂に合わせて、照明が違和感なく付いている



石畳に反射する灯りが素晴らしい



アーケード街の灯り

それは京都としての雰囲気や価値の中で成立している灯りの取り方なのだと。片方にしか街灯がないのに注視しなければそのことには気づきません。そういった気づかなかったことに気付けた街歩きはとても楽しかったです。

◆二寧坂

二寧坂では、お店と道路の関係について話しました。お店の灯りがどれだけ街に馴染んでいるのか、違和感を与えていないのかという話です。あるお店では、白色でお店を照らしていました。お店としては確かに目立つが、景観を壊すという典型的な例でした。

◆石塀小路

石塀小路では、壁面器具の付け方が素晴らしいかったです。坂に対して、絶妙な角度で配列してありました。「美しいね」という話をしながら、通りをでて振り返ると、マンションの廊下の灯



過剰に照らされている川床が空間を台無しに



街の風情を台無しにする白色の照明



店の灯りが街灯りを創り出す



道端で意見交換も

りが先ほどの感動をさっと奪っていきました。よくある器具の配置で景観を壊しているというかなんというか、、という感覚でした。

街にはその街の文化や伝統、積み重ねてきた歴史がある。それを感じながら街灯りを形成していく必要があると感じました。寧々の道の暗さを一般的な道路ですと、暗いと批判を受けそうです。その暗さで成り立つ京都は、日本にとって重要な歴史的財産であることを改めて実感できた街歩きでした。

(小谷弥)

京都の街歩きは暗さが心地よい楽しい街歩きでした。残念に感じるところはありましたが、京都の方々の町へのプライドがあらこちらに感じられ、まだまだ良くなるという期待が膨らみました。

(東悟子)

【照明探偵団の活動は以下の 20 社にご協賛頂いております。】

ルートロンアスカ株式会社
ウシオライティング株式会社
岩崎電気株式会社
カラーキネティクス・ジャパン株式会社
株式会社ルーメンジャパン
株式会社遠藤照明
パナソニック株式会社
ERCO / ライトアンドリヒト株式会社
大光電機株式会社
株式会社 Modulex
コイズミ照明株式会社
株式会社 YAMAGIWA
東芝ライテック株式会社
マーチンプロフェッショナルジャパン株式会社
トキ・コーポレーション株式会社
湘南工作販売株式会社
山田照明株式会社
ルイスポールセン ジャパン株式会社
DN ライティング株式会社
三菱電機照明株式会社



探偵団通信に関してのご意見・ご感想等随時受付中です！

お気軽に事務局までご連絡ください。